

農業農村Webカレッジ研修会 平成26年度後期講座のご案内

農業農村Webカレッジ研修会 平成26年度後期講座(10月1日～3月31日)の実施内容及び受講料は以下のとおりです。

【講座】(平成26年8月25日現在)

受講を希望される講座を下表の中から選んでください。なお、講座番号1～29の講座内容は、平成26年度前期講座と同じ内容です。講座番号30～39が後期講座として追加したものとなります。

なお、前期講座で受講されたものと同じ講座を後期講座で再度受講することは可能ですが、CPD(継続教育機構)ポイントは加算されませんのでご了承ください。

講座番号	講座名(上段)／講師名(下段)	内 容
1	農業土木技術者の役割 (TPPの時代を前に) 大串和紀 ((公社)土地改良測量設計技術協会 客員フェロー)	農業と農村にとって厳しい状況の中、これまでの農業土木を振り返ると共に、農業土木技術者の今後の役割について考える。
2	農業農村工学が取り組む「問題土壌」 成岡 市 (三重大学大学院 教授)	農地土壌に焦点をあて、農業農村工学が立ち向かうべき「問題土壌」への取り組み等について学ぶ。
3	農業と水質 白谷栄作 ((独)農村工学研究所 業務推進室長)	水質基準の意味と農業用水基準、農業と水環境との関係及び農業用水の水質保全の目的と対策について学ぶ。
4	江戸時代の土木技術を探る 松本精一 ((公社)土地改良測量設計技術協会 客員フェロー)	印旛沼堀割普請の古文書をもとに、江戸時代の普請体制、堀割普請の測量・設計及び工事費積算等について学ぶ。
5	”農業水利の歴史に学ぶ” -筑後川中流4堰を例として- 黒田 正治 (九州大学 名誉教授)	筑後川中流4堰を例として、農業水利の歴史を学ぶと共に、今後の展望等について考える。
6	地球環境の時代に 農業農村整備を通じて私たちは何をを目指すか 中道 宏 (元日本水土総合研究所 理事長)	地球環境問題の発生要因、取り組み状況及び将来予測を知ると共に、農業農村整備を通じて私たちは何ができるかを考える。
7	農業土木技術者の倫理 村田稔尚 ((公社)日本技術士会 倫理委員会委員)	技術者とは何か。技術者倫理とは何か。農業土木技術者の倫理、組織の技術倫理等について学ぶ。
8	水と土の文化論 -農の立場から- 大橋欣治 (東京農業大学 客員教授)	生物の生存基盤である地球、「水」の持つ多面的な意味・機能等、水と土の文化論について、農の立場から学ぶ。
9	八郎潟干拓地の土壌と水環境 佐藤 敦 (秋田県立大学 名誉教授)	八郎潟の生い立ちと干拓の歴史、八郎潟干拓の光と影及び残存湖における水質改善の動向等について学ぶ。
10	水土の歴史を振り返る (農業土木事業史) 元杉昭男 (東京農業大学 客員教授)	弥生時代以降の農業土木の歴史を年代毎に振り返ると共に、今後の農業土木事業の展望について考える。
11	現場に根差した農村工学技術論 勝山達郎 ((公社)土地改良測量設計技術協会 客員フェロー)	世界から見た日本の農業、農村の現状について知ると共に、地域農業と地域社会の現場に求められていることについて学ぶ。

講座 番号	講座名(上段)／講師名(下段)	内 容
12	農業農村整備の今日的役割 高嶺 彰 ((一社)地域環境資源センター 総合技術監)	土地改良の歴史、土地改良と他の公共事業との主な違い、課題や取り組み状況等について学ぶ。
13	生存基盤とその技術を考える 川尻裕一郎 ((一社)農業農村整備情報総合センター 客員研究員)	我々の生存基盤(用水はその代表的なもの)とその技術(農業土木)の意味と特徴について学ぶ。
14	畑地かんがいの計画と設計について 中野芳輔 (九州大学 名誉教授)	畑地かんがいの計画と設計の策定手順、用水計画、かんがい方法等の留意点等について学ぶ。
15	ストックマネジメント支える技術開発 中嶋 勇 ((独)農村工学研究所 上席研究員)	農業水利施設の現状、劣化症状、地震・豪雨による破壊症状等を知ると共に、ストックマネジメントを支える技術等について学ぶ。
16	農業水利施設のストックマネジメント ー戦略的な保全管理対策と今後の動向ー 長束 勇 (島根大学 教授)	性能管理による機能保全、機能保全対策の各段階における課題、機能保全実施における今後の動向等について学ぶ。
17	水路システムの水理・水利用機能診断 中 達雄 ((独)農村工学研究所 水利工学研究領域長)	用水路システムの水利機能診断カルテの事例等により、事業計画上の水路システムの水利用機能の着眼点等について学ぶ。
18	水資源機構における水路施設のリスク管理について ー増加する施設の老朽化対応を中心にー 井爪 宏 ((独)水資源機構 技術管理室次長)	事例をもとに、増加する施設の老朽化対応を中心に、水路施設の現状と課題、リスク管理について学ぶ。
19	開水路システムの管理技術 (愛知用水二期事業の事例) 益田和範 ((公財)愛知・豊川用水振興協会 副理事長)	愛知用水二期事業を事例に、水需要変化への対応、二期事業における設計の特徴、水管理システムについて学ぶ。
20	ため池の被害と診断・対策 堀 俊和 ((独)農村工学研究所 上席研究員)	事例をもとに、地震や豪雨によるため池被害の現状、ため池の診断方法、ため池の減災対策方法等について学ぶ。
21	ダム・ため池の設計施工の留意点 増田明德 ((株)三光技術コンサルタント 技師長)	永年、フィルダムの設計・施工管理に携わってきた中で得た、ダムの設計施工における留意事項等について学ぶ。
22	地域資源を活用したバイオマス利活用の展開方向 柚山義人 ((独)農村工学研究所 上席研究員)	バイオマスの情勢・情報、農工研の取組状況及び健全なバイオマスタウンの構築と運営等について学ぶ。
23	農村地域における自然再生エネルギーの総合的活用 中坪秀彰 (NTC コンサルタント(株) 開発事業 新規事業担当部長)	自然エネルギーやバイオマスエネルギー等の再生可能エネルギーを効率的に組み合わせた発電ポテンシャル等について学ぶ。
24	生物多様性と生態系配慮について 森 淳 ((独)農村工学研究所 上席研究員)	誤解しやすい点・意外な点を中心に、農業農村整備事業の現場を意識しながら、生態系と生物多様性について学ぶ。
25	水田生態工学入門 水谷正一 (宇都宮大学 名誉教授)	資源循環型の農村社会、二次的自然の変質と望ましい二次的自然、水田生態工学による環境修復方法等について学ぶ。
26	農村振興におけるGISの活用 木下貴裕 (熊本県土地改良事業団体連合会 事業部主任)	GIS の歴史等を振り返ると共に、GIS の活用事例をもとに、農地の自主管理における GIS の活用方法等について学ぶ。

講座番号	講座名(上段)／講師名(下段)	内 容
27	水田の高度利用を可能とする地下水位制御システム FOEAS	転作時の安定多収効果及び水稻栽培時の省力化や節水効果等が期待できる地下水位制御システムFOEASについて学ぶ。
	若杉晃介 ((独)農村工学研究所 主任研究員)	
28	土地改良事業用地調査等請負業務事務処理要領 質疑応答集及びその一部改正内容について	土地改良事業用地調査等請負業務事務処理要領の質疑応答集及びその一部改正内容について学ぶ。
	(公社)土地改良測量設計技術協会用地部	
29	用水路を拓くーアフガンに命の水をー	戦時下の東部アフガニスタンに農業用水路を建設し、荒れた砂漠の地をアフガン屈指の穀倉地帯に復活させた方法を学ぶ。
	中村哲 (医師 PMS(ピースジャパン・メディカル・サービス)総院長 ・ 農業土木技術管理士)	
30	水利システムの機能と性質	水利システムの更新事業を成功させるために必要な、水利システムの機能と性能の基本的な考え方について学ぶ。
	樽屋啓之 ((独)農村工学研究所 上席研究員)	
31	アースダム・堰の耐震照査(動的解析)について	アースダム・堰の耐震照査を動的解析により解説し、今後の耐震照査について学ぶ。
	加藤智雄 ((独)水資源機構 総合技術センター マネージャー)	
32	農業水利施設を利用した小水力発電量	我が国の小水力利用、小水力発電の基盤、農業水利施設を利用した小水力発電の現状と今後の展望について学ぶ。
	後藤眞宏 ((独)農村工学研究所 上席研究員)	
33	水利権制度と河川水資源問題	「水利権」制度から、河川水資源の自然特性、歴史・地理・経済・財政・政治・行政・水利土木技術・水利組織等の実態を学ぶ。
	岡本雅美(元日本大学生物資源科学部 教授)	
34	ため池の耐震設計例と米国ダム管理例	2011年東日本大震災のため池被害に関する一考察及びアメリカ開拓局におけるダム管理の一手法について学ぶ。
	上田一美 ((公社)土地改良測量設計技術協会 客員フェロー)	
35	板羽目堰の構築・開放技術の継承と地域づくり	明治期から大正期に建設された板羽目堰の技術と、貴重な水利資産として復元され、地域づくりに貢献する状況について学ぶ。
	中村好男(東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科 教授)	
36	自動減圧弁を用いたパイプラインの機能診断	管路の固有振動周期と減圧弁の設置位置起因する自励進藤の発生メカニズムについて学ぶ。
	稲垣仁根(宮崎大学農学部 教授)	
37	寒冷地における水利施設の機能診断及び対策工法	寒冷地における水利施設の機能診断及び対策工法について学ぶ。
	緒方英彦(鳥取大学 准教授)	
38	フィルダムの耐震性照査法とその問題点	全国のダムの耐震性照査をもとにダム委員会での議論されている話題について学ぶ。
	小林 晃(関西大学 教授)	
39	リスク評価からの機能保全対策検討の手筋	水利施設のリスク評価をもとに機能保全対策検討の手筋について学ぶ。
	岩村和平((独)水資源機構 副理事長)	

※講師の方の役職等は、本案内作成当時のものです。

【日程】 平成26年10月1日(水)～平成27年3月31日(火)

※1 申し込まれた講座は上記期間中に必ず完了して頂く必要があります。完了できなかった分を次年度講座へ繰り越すことは出来ません。また、受講料の払い戻しも出来ませんのでご了承ください。

※2 申し込まれた講座の受講が完了し、当協会から受講証明書を発行した時点で、その講座は視聴出来なくなりますのでご了承ください。(受講証明書の発行は、基本的に、全ての講座が完了した翌月上旬に発行しております。)

【受講料】

平成26年度後期講座から、**協会会員企業の職員と、非会員企業又は賛助会員団体の職員**とでは受講料が異なっておりますので、ご注意下さい。なお、協会会員会社かどうかは、下記URLにてご確認いただけます。

<http://www.sderd.or.jp/kaiinmeibo/pdf/seikaiin.pdf>

<協会会員企業の職員の場合>

1講座当りの受講料は、同時申込の講座数に関係なく一律で、下表の単価の通りとなります。

受講料(税込)	CPDポイント数	1CPD当り受講料
¥1,500/1講座	2ポイント/1講座	1CPD 当り 750円

平成 26 年8月25日現在

<協会会員企業職員の受講料の計算例>

例1) 同時に5講座お申込みいただいた場合

5講座×¥1,500=合計受講料¥7,500.-

例2) 同時に10講座お申込みいただいた場合

10講座×¥1,500=合計受講料¥15,000.-

例3) 同時に3講座申し込み受講料を振り込んだ後に、追加で2講座お申込みいただいた場合

当初申込の3講座×¥1,500+追加申込の2講座×¥1,500
=¥4,500+¥3,000=合計受講料¥7,500.-

<非会員企業又は賛助会員団体の職員の場合>

1講座当りの受講料は、同時申込の講座数によって異なり、下表の単価の通りとなります。

同時申込の講座数	受講料(税込)	CPDポイント数	1CPD当り受講料
1～3講座	¥2,000/1講座	2ポイント/1講座	1CPD 当り 1,000円
4～6講座	¥1,800/1講座	2ポイント/1講座	1CPD 当り 900円
7～9講座	¥1,700/1講座	2ポイント/1講座	1CPD 当り 850円
10講座以上	¥1,600/1講座	2ポイント/1講座	1CPD 当り 800円

平成 26 年8月25日現在

※1 同時にお申し込みいただいた場合の金額です。

※2 一度お申し込みいただいた後の追加申し込みは可能ですが、すでにお振込みいただいた講座分の金額は変更できません。追加分のみでの合計申込講座数に応じた単価が適用されます。(なお、追加申込はHPの申込画面を使用しないで、直接、事務局へメールにてご連絡下さい。)

<非会員企業又は賛助会員団体職員の受講料の計算例>

例1) 同時に5講座お申込みいただいた場合

5講座×¥1,800=合計受講料¥9,000.-

例2) 同時に 10 講座お申込みいただいた場合

10 講座×¥1,600=合計受講料¥16,000.-

例3) 同時に 3 講座申し込み受講料を振り込んだ後に、追加で2講座お申込みいただいた場合

当初申込の3講座×¥2,000+追加申込の2講座×¥1,800
=¥6,000+¥3,600=合計受講料¥9,600.-

【CPDポイント】1講座につき、2ポイントです。

【申込期間】 平成26年9月3日(水)～平成27年2月25日(水)

【申込方法】 協会ホームページの申込ボタンからお申し込みください。(申込開始されるまで申込ボタンは表示されません。)

なお、**前期講座を受講された方と後期講座から初めて申し込まれる方とは申込方法が下記の通り異なります。ご注意ください。**

<平成26年度前期講座を受講された方>

申込ボタンをクリックすると、**前期講座申込時に送付したログイン ID と仮パスワード**(受講者様で登録し直したパスワードとは異なります。)を入力する欄がありますので、入力し、「次へ」ボタンをクリックし、次の申込画面に進み、講座を選択してください。(前回申込時の情報が表示されますので、所属先等に変更がある場合には修正してください。)

※平成25年度の Web カレッジを受講された方で、平成26年度の前期講座を受講されていない場合は、<はじめて受講される方>として申し込んでください。

<はじめて受講される方>

申込画面に、「はじめての方はこちらをクリックしてください。」という文字列が表示されますので、その文字列をクリックし、申込画面へ進み必要情報を記入してください。

【振込方法】 振込方法は、郵便振替による方法と銀行口座振り込みの2通りあります。

なお、振込手数料は受講者様のご負担にてお願いします

また、協会会員企業の職員として申し込みされた場合には、当協会にて会員企業であることを確認した後に、受講料等を改めてメールにてお知らせいたします。

郵便振替の場合

申込後に、受講申込受付通知(メール)が届きますので、その内容を確認した後、記されている金額を郵便局指定の郵便振替払込用紙を使用して、下記の郵便局口座へお振り込みください。

口座名義：(公社)土地改良測量設計技術協会

口座記号番号：00120 -1-97558

振込金額：申込受付確認メールに記載されている金額です。

また、郵便振替払込票の通信欄に下記の事項を必ずご記入ください。

- ① 平成 26 年度農業農村 Web カレッジ後期講座受講
- ② 受講者名及び勤務先名(勤務先で複数人をまとめてお振込頂く場合は、会社名と全員のお名前をご記入ください。)
- ③ 受付番号(受講申込受付通知メールに記載されている受付番号です。複数人をまとめてお振込頂く場合は、全員の受付番号をご記入ください。)

銀行口座振込の場合

申込後に、受講申込受付通知(メール)が届きますので、その内容を確認した後、記されている金額を下記のゆうちょ銀行口座へ銀行窓口またはコンビニ等の銀行 ATM からお振り込みください。

口座名義：(公社)土地改良測量設計技術協会

口座番号：当座預金 店名〇一九 口座番号 97558(右詰め)

振込金額：申込受付確認メールに記載されている金額です。

受付番号：送金者のお名前の前に必ず受付番号を入力して下さい。

(例、W14123456 キョウカイトロウ)

【キャンセルについて】

- ※1 受講者様のご都合でキャンセルされた場合には、受講料の返却はいたしかねますので、ご了承ください。
- ※2 受講料お振込み前の受講講座の変更またはキャンセルは可能です。農業農村 Web カレッジ事務局までメールにてご連絡ください。(メールには、お名前と受付番号(ログイン ID)を明記ください。)

【問い合わせ先】

農業農村 Web カレッジ事務局 ((公社)土地改良測量設計技術協会内)

E-mail:nn-webcollege@sderd.or.jp

電話:03-3436-6800